

## 福生市町会長協議会 会報

## ちいき (地域)

《発行》 福生市町会長協議会 会長 溝渕幸太郎



創刊にむせて

福生市町会長協議会

会長 溝渕幸太郎

この度会報「ちいき（地域）」の発行に至りましたことにつきましては、各町会・自治会の会長をはじめとして、役員、会員のみなさま方のご理解とご協力のたまものと、心より感謝申し上げます。と共に協議会として、新しい一步を大きく踏み出した事に対して、その歡びを互いに分かち合いたいと存じます。

会報発行に至るまでを顧みますと、平成十五年度協議会に於きまして、年々減少を続ける会員の加入率を如何にして喰い止め、上昇させるかについての問題提起があり協議いたしました。

さし当たっては、各町会・自治会が、独自の方策をたて、地域の実状に合った活動を展開することでその効果に期待することとし、それぞれが力を注ぎました。しかし、それ程の効果は現れず、減少傾向をとどめるまでには至りませんでした。

平成十六年度初頭、この状況を分析し、そこには、起因する何らかの

問題が潜んでいるものと考えられ、その要因を追求しなければならぬとして、協議会に「町会・自治会活性化部会」を設け、検討を始めました。

委員九名によって一年にわたっての調査研究が行われ、平成十七年三月に「魅力的な町会・自治会を目指して」と題した報告書の作成と報告会を開催する運びとなりました。

報告会には百名を超える市内各界を代表する方々のご参加を頂き、貴重なご意見を頂戴し、私たちが今後に何をなすべきかの問題点が浮き彫りにされ、報告書はさらに充実されたものとなりました。

平成十七年度協議会では、報告書を単なる報告書で終わらせることなく、出来得る事柄から実行に移すことによつて、生きた報告書にしなければならぬとして、新しいメンバーによる「第二期町会・自治会活性化部会」を発足させ、検討を進めて参りました。そこから出されたものが、会員はもちろん、未加入者に対

しても、町会・自治会が地域の中で、どのように組織され、日常どのような活動を展開しているのかを知らせることが最も重要であるとの結論でした。そのことが、この会報の発行につながりました。これまでご多忙の中、携わってこられた多くの方々に対し、そのご努力に改めて敬意と感謝を申し上げます。

社会は、日々激しく変動しております。そうした中で明るく安心して住める環境を作り上げるための重要な一翼を担っているのが町会・自治会であると自負しております。その成果をもたらすものは、地域住民のすべてが町会・自治会に加入して、互いに手を携えて物事に取り組み、そこそが唯一の方策であると考えます。一歩しりぞいてお考えの方々、是非ともお力をお貸し下さい。

終わりに当たり、この会報が更なる充実をもたらしながら、五十号、百号と継続されることを願い、ご挨拶といたします。



町会長協議会会報の創刊にあたり

福生市長 野澤 久人

町会長協議会会報「ちいき（地域）」の発刊を、皆さんと共に、心から慶びたいと思います。

町会・自治会は、基本的に地域で自主的に参加し、お互いに助け合う（互助）組織ですが、時代時代でその活動は、様々でした。

しかし、今は最も本来の形に近い活動が行われ、近代化が進んでいる時代ではないでしょうか。

地方主権（自分達のまちは、自分達で創る）が進み、公助（行政が行う仕事）の範囲が財政負担に応じ限定されてくると共に、行政では出来ない仕事が増えつつあります。

その典型が、大地震や火災時の初動活動、防犯などでしょう。又、気持ちよく地域生活を送り、子どもを育てるには、隣近所で支え合うことが必要になります。

都市は、このような大事な地域生活の仕方（互助）が無くても生きられる場所であるといった考え方もあり、又、そのような生活の仕方を失わせてきましたが、今は、その重要性が再認識され、それが無いと生

活が出来ない時代になっています。

福生警察署の十六年対十七年の統計を比較してみると、十七年の犯罪総件数は約十五パーセント減少し、特に侵入盗犯では、四〇パーセントも減りました。町会などが、地域パトロールをしたり、防犯の話などによる意識の高揚、お互いに気を付けていくことを広めてくれたことなど多くのご協力に感謝すると共に、警察や役所他が協働して努力した結果でしょう。

福生に来ても皆の目が犯罪は犯せないまちであるというように成る為には、まだまだ全市民の協力が必要で、その中核をなす町会・自治会の活動は欠かせないものであります。

健康や環境や安心・安全、豊かな市民生活は誰かがやってくれるものではなく、自分達で創るものとして、自らが努力しないとどこかでそのお返しにくるということです。

会報が、そのことを理解する市民が一人でも多くなるのに、役立つことを願っています。

第一回目は、どんど焼きについて触れたいと思います。

福生市及び周辺地域では「セーノカミ」「サイノカミ」と呼んでいましたが、現在は「どんど焼き」の呼称が一般的となりました。

歳神（トシガミ）の帰るときに正月の飾り物を焼くことを一つの目的として火をたく行事で、全国各地で見られる小正月（一月十五日）に行われる火祭り行事の一つです。

子供が中心となつて行われますが、しめ飾りや門松を積上げて焼いた煙に乗って歳神さまが帰るとか、書初めをこの火で燃やし、燃えさしが空高く上がると、手があがる（習字が上手になる）、この火で団子（小正月の行事の一つのまゆ玉飾り、養蚕の豊作を祈る行事で作った団子）を焼いて食べると風邪をひかない、その燃え残りを持ち帰って除災招福（じよさいしようふく）のまじないとする、などの伝承が内容となっております。

ふっさ再発見 vol.1 ~どんど焼きの由来をご存知ですか~

市内では三十年ほどこの行事が中断していましたが、最近復活し、志茂第一町会では毎年、成人の日（多摩川中央公園）付近で行っています。その他、福生どんど焼きの会が毎年一月中旬の日曜日に、かに坂公園で行っています。

熊川地域で昭和三十年代まで伝えられていた様子をたどると、正月七日の早朝、小学生が各戸の飾り物を集め、半紙で幣（へい）を切って、長い棒の先に結わえ付け、道筋へ建てます。そして十四日の早朝、田んぼの道（みちつじ）へ正月飾りやだるまを三メートルくらいに積み上げ、町内を「だんごやき」と呼んで歩き、人を集めて火をつける。という形式で行われていました。



かに坂公園でのどんど焼き

# わたしたちの町会・自治会

## 鍋ヶ谷戸の生い立ち

鍋ヶ谷戸第二町会 森井 常貴

青梅線拝島駅から五日市線に乗り換えて、最初の駅が熊川駅です。駅を中心に鍋ヶ谷戸第二町会があります。そこで、何故、鍋ヶ谷戸なのかを調べてみました。

(その一)ナベは那邊に通じ、「那」は古語の「魚」で、「辺り」は「畔り(あたり)」、場所、そのナベが鍋となったものと見られる考え方

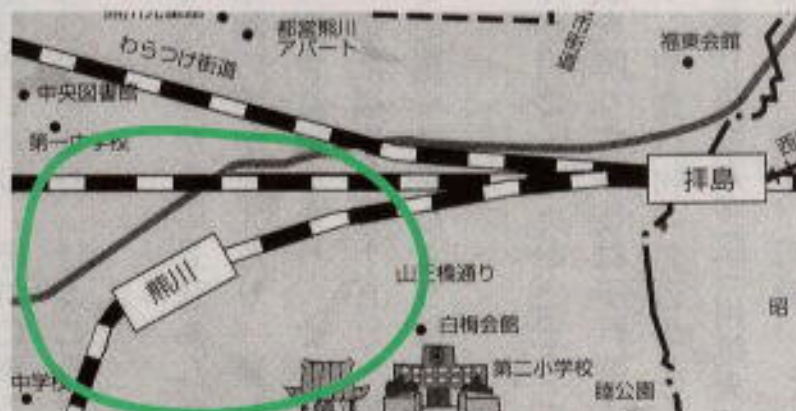
(その二)アイヌ語的解明で試みに解いてみると、「川(沢)」はナイ、「辺(水)」はベツで、ナイベツが詰まってナベとなる考え方

(その三)「ヶ谷戸(かやと)」この語は、平安朝初期(七七四年)頃各地に発生し、垣戸、垣津、垣律、開土、開戸、改戸、谷戸(谷地、野地)等の字が当てられ、カイト、ゲート、ギヤート等とも開拓した土地で開地、開土(かやと)か、それらが集落に発展し地名になったとする考え方。

※参考文献(森田潤三氏「熊川地名考」)  
昔、鍋ヶ谷戸付近は、山林原野が多く、風

当たりの強い原で、窪みのあるところから開けたとされ、多摩川縁り(べり)に、葦(あし)などのある土地があり、開土、開戸、が生まれてきて、それがヶ谷戸に結びついてく

る。(人が最初に住みつくのは、第一に湧き水とか川水とかの付近である)それにしても何故ナベに漢字の鍋が当てられたのか...と思います。



鍋二町会エリア

## 牛浜町会と牛浜第一町会のあゆみ

牛浜第一町会 村野 光雄

牛浜第一町会は昭和二十八年四月に、福生牛浜町会を青梅線で東西に分割し、西側を牛浜第一町会、東側を牛浜第二町会として現在に至っております。

昭和二十年頃は、五日市街道と奥多摩街道の道路沿いに二十三軒位の家が有るくらいで、他は畑でした。

牛二地区は畑の中に、四軒の陸軍の官舎が有るだけで、(今のオザムの所)昭和二十四年頃牛浜地区と志茂二地区が区画整



三角巾の使い方について指導を受ける



訓練で実際に放水を体験する

理され、急激に人口が増え、二十八年に分かれたわけです。この頃は今の第三ブロックが一つの町会で、確か志茂町と言われていました。

牛浜第一町会は福生市の真中に位置しており、北側は青梅線、東側は五日市街道、南側は奥多摩街道沿い、西側は牛浜北通りの小さな町会です。町会会員は現在二二五名です。

最大の行事は、やはり、八雲神社の祭礼です。神輿と山車の町内巡行と志茂一町会と志茂二町会との三町での競り合いが伝統的に行われています。

秋には、防災訓練と餅つき大会が行われています(昨年は、十一月十三日に地震車による体験を七十名の参加者に行いました)。

総会には約八十名の参加者があります。新しい町会会員を募集しておりますので、お近くの組長さんか三役にご連絡ください。

## ふれあい下水道館で防災研修

南町会 石内 章弘

こんにちは、南町会です。

十一月六日に防災研修会を行いました。今年には台風により都内で水害があった関係で小平市にある「ふれあい下水道館」という所へ行くことになりました。地上二階、地下五階の建物で、地下五階からは、実際に使われているマンホールの中に入ることができました。防水扉の先は直径四、五メートルで雑排水と雨水と一緒に流す大きな下水道ですが、その時間は、汚水だけ流れていたようでたいへんな臭いでした。講義、見学を終わり、調布の深大寺で昼食をとり、府中のサントリービールの工場見学をして、福生に帰ってきました。大変、有意義で和やかな研修会でした。

当日の様子は、南町会のホームページをご覧ください。

《南町会ホームページ》

<http://www.otsu.co.jp/minami/>



ふれあい下水道館での研修の様子

## 年に一度の楽しみ、町会遠足

本町中央町会 H・S

私たち中央町会では、ここ数年、秋に多摩地方の山登りをメインにした『町会遠足』という行事をおこなっています。今まで行った所は、羽村の堰から草花神社、御岳山と澤の井酒造、五日市の山々と黒茶屋など、山登りをしてから地元の美味しいお料理を楽しむといったものでした。今年はちよつと趣向を変えて埼玉県の川越に行く事になりました。

川越は古くからの町でいろいろと見てみるところはありましたが、ちよつと遠いのはと思っていました。ところが行ってみてビックリ！東福生の駅から八高線と川越線乗り継ぐ直通の川越行きがあり、それに乗ると川越までわずか五〇分あまり、けっこう近いですね。

実際乗ってみると車窓からの景色もなかなか面白く、横田基地の中が見えたり、新しくなった箱根ヶ崎の駅舎に驚いたり、その先は緑がいっぱい、まだ福生から十五分も経っていないのにすでに遠くに来たような気分でした。

急に大きなビルが目に入ったかと思うとそこはもう川越。駅を降りて午後は歩行者天国になるファッションや食べ物のお店がたくさん並んだ商店街を通り抜け喜多院（川越大師）まで歩いていきました。途中、可愛いレトロ

な雰囲気の市内巡回バスに出会いました。乗ってみると、運

手の方がガイドさんになって市内の行事や名所旧跡の説明をしてくれてとつても親切でした。それから大正時代を思い出させるような商店街を通り地元の割烹寿司のすし屋で松花堂弁当をいただきました。食後は『時の鐘』や『菓子屋横丁』付近を散策、あいにくの雨模様でしたが川越名物のさつま芋のお菓子やおせんべいをたくさん買って帰りました。

今回は山登りと違って町の中を歩いた遠足でしたが、新しいものと古いものが同居した町、川越。また行ってみたいと思える懐かしさを感じた町でした。来年の町会遠足はどこへ連れて行ってくれるのかしら？



川越大師の前で記念撮影

## 加美第二町会の紹介

加美第二町会 小村 光一

加美第二町会は、福生市の北西部に位置し、西に武蔵野の面影を残す新東京百景に選ばれた新堀橋が架かる玉川上水から、北は羽村市

と接し、東は柳通りまでの青梅線を挟む広範囲にわたる町会です。

加美地区には約一五〇〇世帯が居を構えています。本会は、会員相互の連携と親睦を深め、明るく住みよい環境づくりに貢献することを目的として、春の町内一斉清掃に始まり、七月には盆踊り大会、夏祭り、八月防災訓練や九月は大運動会、文化祭と盛りだくさんの行事を実施しています。

会員ならびに会員内より選出された会長一名、副会長三名、会計一名、書記一名、プロック長九名、会計監査二名、相談役九名、その他各委員、各種団体の協力により各行事、回覧板・掲示板による広報等が運営されています。



盆踊り大会



町内一斉清掃でのゴミ分別

## 横田基地視察

### 見学レポート

#### 特別寄稿

本町第七町会 柳川 英司

秋晴れの中、横田基地の視察見学並びに基地交流を目的とし、町会役員三十一名の参加により本七町会役員視察研修を実施しました。

本七町会は横田基地を目の前にした地域です。地域の住民として基地並びに軍人・軍属の方々と深く関わってきた環境にありながら、基地内の施設に関して無知に等しいものがありました。そこで、今後の友好と相互理解及び協力関係をより高めていく上でも、また今後・将来、基地のあり方を考える意味でも地域住民として知る第一歩と思い実施しました。

朝十時に福生ゲートより入場し、施設内広報部において、戦前の福生基地（旧日本軍航空部隊）時代から戦後アメリカ軍統治下、さらに現在に至るまでの映像を見、説明を受け、現在の軍人・軍属のことや学校等施設の説明の後、質疑応答となりました。町会役員から活発な質問

が出た事は、良い意味で予想外：予定時間を超えてしまうほどでした。

次に、基地消防隊。隊長より消防活動・組織・設備等説明を受けた後、特殊消防車輦を利用し、滑走路において実際に放水訓練を見せてもらいました（もの凄い迫力）。その後、基地内をバス見学し、昼食を兼ね交流会を開きました。その席で、概ね三時間半の短い時間ではありましたが、大変有意義な充実した時間を過ごせたと役員一同、感想を述べました。

今回の役員視察研修は、横田基地広報課、関係各位のご協力により実施出来ました。厚く御礼申し上げます。



横田基地の特殊消防車両の前で

近所で 手を取りあひこし 助けあひこ

# 町会・自治会に加入しましょー

## 町会・自治会の役割とは

町会・自治会は、地域に住む人々が親睦や交流を深めることによって連帯を培い、お互い助け合いながら、よりよい地域づくりや、住みよこちのよいまちづくりのために、自主的に組織された団体です。

現在市内では、三十四の町会・自治会があり、皆さんからの町会・自治会費や、市からの補助金をもとにして、おもに次のような活動を行っています。

### ○文化・教養・レクリエーション

夏祭り、盆踊りなどの主催や、七夕まつり、市民総合体育大会、市民文化祭への参加。

### ○自主防災

自主防災組織の運営、自主防災リーダー講習会、女性防災コンクールへの参加、防災訓練等。災害時の対応など。

### ○防犯・交通安全

防犯講習会、年末警戒等の防犯活動、交通安全講習会、春秋交通安全運動への参加。

### ○福祉

赤い羽根共同募金等の募金活動、福祉バザー協力、歳末助け合い運動等の実施。

### ○環境美化

資源回収の実施。町内清掃、花いっぱい運動への参加。

町会長・自治会長一覧 (敬称略)		
町会・自治会名	町会長・自治会長名	
福生熊川住宅自治会	佐々木 洋 亜弘	
南 町 会	石内 川 章 勘治	
内 出 町 会	石川 林 尚 尚司	
武蔵野町 会	小宇 林 都 尚 紀男	
福 東 町 会	小宇 相 山 井 夫 勇	
南田園一丁目町 会	鍋ヶ谷 戸 第一 井 常 貴	
鍋ヶ谷戸第二町 会	鍋ヶ谷 戸 第二 片 桐 君 夫 貴	
玉川台町 会	富士見 台 溝 沼 幸 太 郎	
福 栄 町 会	熊川牛浜町 会	高宮 西 上 野 昌 光
福生団地自治 会	南田園二丁目町 会	南田園三丁目町 会
牛浜第一町 会	牛浜第二町 会	原ヶ谷戸町 会
志茂第一町 会	志茂第二町 会	本町第一町 会
本町第二町 会	本町第三町 会	本町中央町 会
本町第六町 会	本町第七町 会	本町第八第一町内 会
本町第八第二町内 会	武蔵野台一丁目町 会	加美平団地自治 会
永 田 町 会	長 沢 町 会	加 美 第 一 町 会
加 美 第 二 町 会		

### ○広報活動、情報提供

町会・自治会、市や学校、各種団体からのお知らせの回覧や、書類の配布等の情報提供。  
《町会・自治会への加入は》

お近くの隣組長さんか、町会長・自治会長さんへ加入の申し出をして下さい。なお、町会長・自治会長さんの連絡先や、ご自分の町会・自治会がわからない場合は、福生市役所協働推進課（☎551・1590）へお問合せ下さい。

## 編集後記

お読みいただきありがとうございます。創刊号発行にあたり、投稿くださいました皆様に心よりお礼申し上げます。

紙面の町会長協議会会長の挨拶にもありましたが、活性化に向けての実践として会報を作りました。町会長協議会は福生市民の安心安全な街作りに向け、また市民の行政への意見や要望、市民相互の親睦のためのパイプ役、懸け橋となるよう努力してまいります。皆様のご投稿をお願いいたします。会報は、当面年二回（三月、九月）発行いたします。創刊号発行メンバーを紹介し、結びといたします。

### 《町会・自治会活性化部会》

部会長…佐々木洋亜  
副部会長…田中 信慶  
部会員…宇都紀男、片桐君夫、高橋 勉  
村尾幸男、笹本和一